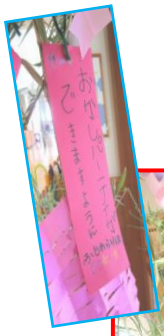
みらいつうしん

7月号

2020 年 7 月 1 日
田園調布学園大学
みらいこども園
園長　勝浦芳子

子ども達の土(泥)遊びの効果がすごい！

6 月から、スマイルさんの分散登園がスタートして一ヶ月が経とうとしています。どことなく緊張気味だった子ども達にも笑顔が増え、笑い声があちらこちらから聞こえるようになりました。「もっと遊びたい！毎日こども園に来たい！」という声も上がり、コロナ渦の中ではありますが、園生活が楽しいと感じてくれていることがとても嬉しく思います。

さて、梅雨の季節の中、晴れている時は、園庭で、好きな遊びを見つけては、思いっきり遊んでいる子ども達ですが、特に土に触れての遊びは、子ども達に大人気で、0 歳児から土に触れ夢中になって遊んでいます。この土に触れて遊ぶことは、人間形成の上でとても重要で、いくつかの効果があります。①土や砂を触ることで五感(視覚、聴覚，臭覚、触覚、バランス覚)を磨き、何よりも土に触れることで、心地よさを感じ情緒が安定します。②土をこねたり持ったりかきまぜたりすることで、体力が付きます。③土を使って、いろいろなものに形を作り出すことが出来ることで、創造力・想像力・忍耐力が付きます。④同じ興味を持つことで、仲間ができ、集団行動に馴染みやすくなります。⑤とことん土遊びに夢中になることで、自己肯定感が育ちます。以上のように、乳幼児期に土遊びを多く体験することは、人として、どう生きるか、どのようにふるまえばいいのか、どんな気持ちで過ごせばいいのかなどの基盤につながるものです。みらいこども園では、この体験をとても大切にし、子どもたちが心豊かに育つことを願っています。先日も、にじ組さんが、泥団子を、真剣な表情で、表面がつるつるになるまで試行錯誤しながら根気よく作っている姿がありました。お互いに協力したり、「俺が 1 番」と競い合ったりする姿もあり、たかが泥遊びではありますが、たくさんの学びがありました。「積み重ねは力なり」といいますが、子ども達の毎日の遊びは、確実に成長につながると感じます。これから水遊びも活発になりますが、新たな発見と成長を楽しみにしていきたいと思います。

ところで、7 月 7 日は、七夕ですが、先日、新城小学校の校長先生にお願いして、笹を分けていただくことになり、にじ組さんが、クラス分の笹をいただきに行きました。皆さんに短冊を配り、「願い事を書いてきてね」と話したところ、「コロナウイルスがなくなって、お友達みんながみらいこども園に来れますようにとお願いするの」と言っている子どもがいて、子ども達も、コロナウイルスの終息を願っているのだなと痛感しました。みんなの願いが、天まで届き、一日も早く平和で安心な生活が戻ることを祈ります。これから、暑い日が続きますが、マスク着用の生活の中で、体調を崩さないように、衛生面に十分注意しながら保育を進めて参ります。これからもご理解とご協力をお願いいたします。